



冬近し

10月も後半になり、気温も日に日に下がっています。峠の方では初雪が降ったなどの放送を見ました。北海道は長い冬に入ろうとしています。平野部でもあと数週間すると初雪が降る時期に入りました。外を見るとタイヤ交換している景色をよく見かけるようになりました。もう冬も近いと感じるこの頃です。

2023年も終わろうとして

この時期になると巷ではハロウィンがあり、その後はクリスマス商戦に入ります。11月からクリスマス一色に日本の景色が変わることは、日本もキリストが近くに来ていると感じます。

日本の歴史を振り返ると80年近くも戦争がなかった時代は江戸時代ぐらいではないかと思えます。江戸時代は鎖国政策で外国とは一切かかわりを持たず、自国だけで民の交流や政治がなされた時代でした。260年という戦乱のない時代の礎を築いた徳川家康の人生が物語っているように忍耐の260年ではなかったかと思われれます。キリスト教も禁教となり、一部の隠れキリシタンが命懸けで信仰を守り続けました。司祭や神父などの聖職者がいない中、信者だけで必死にキリスト教信仰を守り続けたことも奇跡の一つではないかと思われれます。

江戸時代が終わり、文明開化の明治時代が始まり、開国後、富国強兵で軍事力を中心に国家を形成しましたが、80年弱で敗戦を迎え軍事国家は絶えました。それから80年弱の月日が経ち、日本は経済大国になりましたが、最近ではコロナ禍、インフレなどで経済力は下降線となりました。2023年後半ではドイツにGDPが抜かれ、実質世界団4位になりました。その後ろからインドなど人口の多い国が迫ってきており、日本の経済力は日に日に弱まってくのが目に見えます。

65歳以上人口が21%以上の超高齢化社会も

後押ししてこれからの時代少ない若者が多くの老人を支えていく福祉国家となっていくのではと思われれます。

これからは老人医療、看護、介護などの老人福祉が社会の根幹に位置する福祉国家になる時代が待っています。より弱者にやさしい社会が求められようとしています。

わたしも日々の生活の中でキリスト教信仰を証する時間が増えています。牧師としての仕事は日曜日と日々のデボーションの時間と一粒の麦を書く時間に限られています。二刀流をこの5年弱続けさせていただいています。大谷選手も無理がたたっているのか2度も右ひじの手術をしています。私も2度ほど試練の中を歩んでいます。神の恵みなしでは到底できない業ではないかと思っています。

秋の北見峠付近→



2023年9月25日から一ヶ月間の活動

10月27日(金) 一粒の麦 No. 234 発行

聖日礼拝 祈祷会 毎週(日)

反省と課題

今、日本は転換期に来ているような気がします。経済中心の時代ももうすぐ終焉を迎えるのではないかと感じます。借金を返すためにはお札をどんどん擦り続けるか増税するかしかないとある本を読んで知りましたが、どちらも限界があります。今、日本はどちらもしています。お金以上に大事なものに気づく時です。